義肢装具学科の人材養成の目的

【学部の人材養成の目的】

保健医療学部は、医療技術と健康生活の向上や改善に資する理論と技能、人間の運動機能の向上・支援に関する理論と技能、高度医療に不可欠な工学的知識と応用能力を軸とした医療と福祉に関する専門性に優れ、チーム医療を総合的に捉えつつ次代の保健医療学を創造・実践できる人材を養成することを目的とする。

【学科の人材養成の目的】

義肢装具学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力及び義肢装具士として生涯成長し続けるための基盤となる能力の修得のもとに、義肢装具学分野に関する必要な知識、技能及び態度を有し、義肢装具学及び総合大学での学びを活かして、地域社会の健康と活性化に貢献する次のような人材を養成する。

①義肢装具士として必要な専門的知識と実践的技能を体得し、卒業直後から指導助言のもとに義肢装具の製作適合等ができる能力を有した人材

②義肢装具学研究に関する思考力と創造性を有し、問題解決に向けて取り組むことができる人材

③保健・医療・福祉制度の下で、他の関係職種と連携・協働し、義肢装具士としての役割を果たせる人材

義肢装具学科ディプロマ・ポリシー

義肢装具学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（義肢装具学）の学位を授与します。

1．コミュニケーション力
論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2．課題発見解決力
必要な情報を収集・整理・分析する能力を有し、さまざまな課題に柔軟に対応できる。

3．自らを律し、学び続ける力
目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を有し、医療福祉を支える知識・技術を自主的・継続的に学習できる。

4．多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力
文化・社会の多様性を理解できる幅広い教養と豊かな人間性を有し、他分野とも協力して地域社会の発展に貢献できる。

5．専門的知識・技能を修得し、実践する力
義肢装具学分野の専門知識及び実践的能力を有し、医療福祉に関するさまざまな課題に対し、柔軟かつ迅速に対応できる。

6．総合力
修得した能力を総合的に活用して、社会に存在する課題や自ら立てた新たな課題を解決し地域社会の発展に貢献できる。

義肢装具学科カリキュラム・ポリシー

義肢装具学科では、HUS スタンダード科目、学部共通科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の有機的な結合によって、義肢装具士としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性・関連性を体系的に理解できるようカリキュラム・ツリーを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメントプランとしてまとめています。

1. 基盤能力の修得に向けて①コミュニケーション力、②課題発見解決力、③自らを律し、学び続ける力、④多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力を養う HUS スタンダード科目を配置します。

2. 専攻分野に必要な基本スキルを育成するための HUS スタンダード科目、学部共通科目、専門基礎教育科目を配置し、領域ごとに最適化された専門知識・技能修得のための専門教育科目を配置します。

3. 基盤能力と専門的知識・技能に関連する科目を体系的、効率的に修得できるよう配置します。

4. 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修をサポートするため、充実した学内 LAN 環境、e-learning 環境などの優れた IT 環境を提供します。

5. 現代社会の多様な義肢装具領域のニーズに応えるため、最新かつ高度な知識及び技能を学ぶ専門教育科目を配置します。

6. 義肢装具士に求められる実践的な経験を積み、協力・協調する姿勢と自ら課題を発見し、問題を解決する能力を育成するため、実際の義肢・装具使用者のニーズを題材とした少人数グループで行う演習科目、実習科目を実施します。

7. 自らの力を客観的に評価する専門教育科目における実習や臨床実習における症例経験、報告活動を通して、実践的能力と自律的学習能力を育成します。

8. 各授業科目の成績評価については、成績評価ガイドラインに則り、厳格かつ公正に行います。

9. 学生の学修成果については、アセスメントプランに定めた方法及び収集した情報に則り、評価します。

義肢装具学科　アドミッション・ポリシー

① 基本方針

義肢装具学科では、「義肢装具士として必要な専門的知識と実践的技能を体得し、卒業直後から指導助言のもとに義肢装具の製作適合等ができる能力を有した人材、義肢装具学研究に関する思考力と創造性を有し、問題解決に向けて取り組むことができる人材、保健・医療・福祉制度のもとで、他の関係職種と連携・協働し、義肢装具士としての役割を果たせる人材」の育成を通じ、地域社会の健康と活性化に貢献します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲をもった学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
義肢装具学に興味を持ち、保健・医療・福祉を通じて社会貢献する意欲を持つ人	→	△	○	◎
義肢装具士としての専門知識と技能を高め続けることができる人	→	◎	△	○
義肢装具学を学ぶための基礎学力を有し、高い勉学意欲のある人	→	○	◎	△

③ 学力の3要素と求める多元的な評価

学力の3要素							
知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接	口頭試問
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	レポート	個人面接	
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	集団面接	自己推薦書	集団討論		

④ 入学者選抜方法における評価の比重

入学者選抜方法		学力試験	調査書	発表	レポート	推薦書	集団面接	個人面接	自己推薦書	集団討論	口頭試問
新ガリレオ選抜	→	○	―	○	◎	―	○	△	△	◎	―
学校推薦型選抜（系列校）	→	―	○	―	○	○	◎	―	―	―	△
学校推薦型選抜（指定校）	→	―	○	―	―	○	◎	―	○	―	△
学校推薦型選抜（公募）	→	△	△	―	―	○	◎	―	○	―	―
自己推薦型選抜	→	△	○	―	―	―	―	○	◎	―	―
一般選抜	→	◎	―	―	―	―	―	―	―	―	―
一般選抜（共通テスト利用選抜）	→	◎	―	―	―	―	―	―	―	―	―
外国人留学生選抜		○	―	―	―	―	―	◎	―	―	―

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

・社会における諸問題を解決するため、自然、社会、文化に関する偏りの無い基礎知識を習得していること。
・義肢装具学を中心とする学士課程教育を学ぶための必要な基礎学力（国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民）を有すること。
・専門職として自分を磨き続ける必要性を理解し、高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ経験をしていること。
・保健・医療・福祉は人との交流のなかで行われるので、聞く、話す、読む、書く能力（コミュニケーション能力）を身に付けていること。
・人の健康を守る専門職を目指す者として、健康な生活を送るための生活習慣を身に付けていること。

※記号（◎，○，△）は重要度の順序を表しています。